

つちゃ行げ、赤犬っ仔こっっちゃ来(言った)」つったんだと。そしたら、白犬っ仔泣き泣きあっちゃ行って、赤犬っ仔喜んでこっっちゃ来たんだって、そして拾って来て、囲炉裏(いろり)のすまっこさゴザ敷いてなナ置いだつたんだ。「赤犬仔(しろまんま)、白飯食うが、赤飯食うが」つったら、「俺赤犬っ仔だから赤飯食う」つた。赤飯食わせで囲炉裏のおまっこで育ったって。

そしたら、お(大)っきぐなってナ、正月来る頃になったら、ハアお(大)っきぐなって、「爺ちゃん爺ちゃん俺に乗っせ」って。「にしみてえに(おまえ)めんげいの(可愛い)に乗られっか」って。そしたら、「鍬担いで乗ってやばっせ」って。そして行ったら、「ホクツつておっ転んだとこ、掘ってみらっせ」って、それから降りて掘ってみだ。そしたら銭はザックザック出る。そら、赤い着物だの、草履だの、下駄だの出たんだって。

そして戻って来たって。「婆様婆様、あのな、赤っ仔に着物いっぺ貰ったぞ」って。「あ、いがったな、これ土ん中であつたんだから、着物しけっぺから外さ干せ」って。外さ、それ、着物だ、下駄だって干して置いたら、隣の欲深爺様来て「なんだよ、お前家(めげ)で、なしてそだに着物いっぺあんだ」って、「あのな、俺家の赤犬っ仔授けでくっちゃんだ。『俺さ乗さってやばっせ』ってゆうがら『にしゅみでいなめんげいがなに乗らん(おらげ)にえ』って。『いがら乗ってやばっせ』ってゆうがら乗ってたらば、こうゆうわけなんだ」って「大判小判出る、着物出るして、こらほどあつたんだ」って。「そんじゃ俺にもこの赤犬っ仔貸してくんつえ」って。「いや、貸さんにえ」「いや貸してくんつえ」って無理矢理せ(連れて)でつたって。

引っぱってって「鍬乗せろ」どもゆわねの乗せで、「乗れ」どもゆわねの乗ってって、そんじえおっ転ばねつんだ。おっ転ばねのおっ転ばして、そして掘って見だら、いろいろな泥だとか、ほら、馬の糞出たりして、穢(きった)なくて「ハア、こだ犬ぶっ殺してしめえ、こだの置がんにえ」

って。そして、木さ結つづけで殺しちゃったって。

そしたら、「お前(め)どうしたんだ」「あそごさ埋げて来たから行ってみらっせ」それがらいい爺様行ってみただって。「可愛そうに、お前殺さち」そして花あげで梨の木一本植えで来たんだって。たちまちお(お)っきぐなって、それがら、「梨(お)、落ちろ」って、爺様がゆつたらポタッと落ちだ。「婆様がなに、いま一つ落じねが」つたら、また一つポタッと落ちだ。

そして、我家さ持って来て、婆様ど爺様ど仲よく食った。したら、まだ、欲深爺様来て、なんだ、お前家(めげ)でそんなでっかい梨、どっからもいで来ただ「お前が俺家の赤犬っ仔殺したから、そごさ行って墓印に梨の木一本植えで来たんだ、それがお(お)っきぐなってたんだ」って。「そんじゃ、俺も行って来る」って行ったらば、やっぱなつたんだつうだ。「梨(お)、落ちろよ」つたらば、眼(まなこ)さ落ちだつたいうだ。「こつたら畜生、！ 本(ほん)当(だん)に、！ 婆様がなに、いま一つ落ちろよ」つたら、そしたら、今度額(こんだひてい)さ落ちで来たって。でかい瘤出来ちゃつたって、それから家さもどつて、鋸持って来てひったぎっちゃつた。ごせやいでひったぎっちゃつたって。それがら、いい爺様また梨もぎりさ行つたんだって。そしたら、「こんなお(お)っきな瘤出来た。憎らしがら伐つて来た」って。「そんじゃ困つたな。行つてみで来っかな」なんてゆつて、行つてみだらば、ひったぎつてあつたから、我家さ持って来て、白こしやつた。

そして今度、正月になったら餅搗いで、一生懸命餅搗いだら、今度白がら盛りあがってな、大判小判出たんだって。そしたら、また隣りの爺様聞きづけて来て、「やあ、お前家(め)で餅搗きが、たいしたもんだな、お前家(め)で餅搗いでと思つたら、大判小判こらほど出た。そんじゃ、俺家さも白貸さっせ」って、したら、「お前みでいな気短かな人さ貸さんにえ」つた。「いや、そうゆわねで貸してくんせ」無理々々持つてっ